

企業事例

株式会社フレートサービス

株式会社フレートサービス

専務取締役

井原 和志 氏

鋼材輸送を主体に「素材受け入れ」 「鋼材の一次・二次加工」 「納品」 までワンストップで提供

鋼材輸送

鋼材輸送に適した車両や船舶で、
法令順守のもとスピーディーな輸送を提供



鋼材加工

2000t 油圧プレスによる鋼板の曲げ加工及び、

協力会社によるショットブラスト加工、NC 切断加工を提供



中継荷役業務

天井クレーン付き倉庫や屋外クレーンを使用し

鋼材の一時預かりや中継業務に対応



- 名称 : 株式会社フレートサービス
- 設立 : 平成5年11月4日
- 本社所在地 : 愛媛県今治市東鳥生町5丁目42
- 従業員数 : 46人
- 事業内容 : 陸上・海上輸送
貨物荷役・荷捌き
倉庫業
鋼材加工（切断、溶接、曲げ）

脱炭素経営に取り組むことで コスト削減や認定制度のインセンティブを狙う

個別伴走支援に求める支援

社内のエネルギー
使用量削減の
きっかけづくり

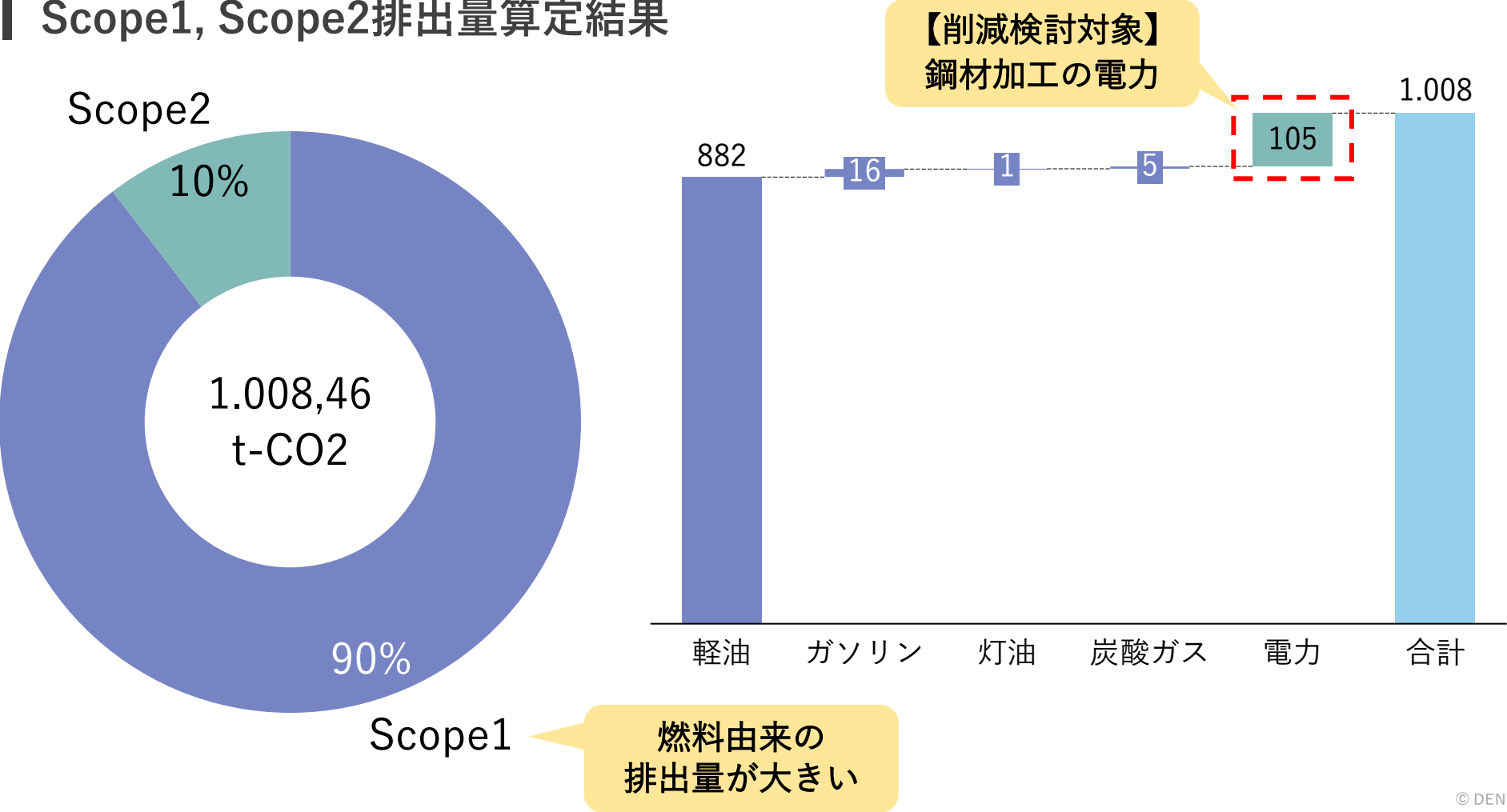
- 支援前には、算定・削減には取り組んでいない状況
- 特に鋼材加工（切断・プレス等）の電力を削減したい

えひめ・ゼロカーボン
チャレンジ企業
認定制度の取得

- 補助金採択審査時での加点などインセンティブに魅力あり
- 営業的にも認定取得していることを活用したい

支援を受け、自社のCO2排出量を算定
運送業で使用する燃料が多いため、Scope1が多くを占める

Scope1, Scope2排出量算定結果



電通総研から提供された削減施策リストを活用して、
自社で取り組める施策を抽出・計画策定

抽出した施策を基にロードマップ策定

施策分類	削減計画期間					
	2026年				2027年	2028年～
	1Q (4月～)	2Q	3Q	4Q		
設備投資なし	不要箇所・不要時間帯の消灯		コンプレッサの吐出圧の削減			
	照明器具の照度見直し		コンプレッサの運転時間短縮			
	照明器具の清掃		コンプレッサ配管の空気漏れ対策			
	構内機器の稼働設定の見直し					
	5S活動の実施					
設備投資あり	高効率照明への更新			コンプレッサ等の台数制御システムの導入		
	窓・屋根・外壁の断熱性・遮熱性向上					
	スポットクーラーの導入					
	太陽光発電設備の導入					
長期的な施策	再エネメニューの導入					
	カーボンオフセットの活用					

実際に検討を推進

屋根への遮熱シート施工について、
現場確認を実施し、投資対効果を正しく判断

遮熱シートの施工可能性・効果を現地確認にて検証

- 現地調査の結果、遮熱シートの施工は効果が少ないことが判明
⇒ 優先的に実施すべき施策ではないと判断し、取り下げ

現地検証で正しい
投資判断ができた



太陽光発電に関して、脱炭素経営セミナーでの企業のつながりから業者をご紹介いただき、見積を取得・導入を検討

太陽光発電の導入を検討中

自社で見積取得

- ・ 自社で検討し、見積取得

脱炭素経営
セミナー参加

- ・ セミナーで知り合った企業から太陽光業者を紹介いただく

相見積取得

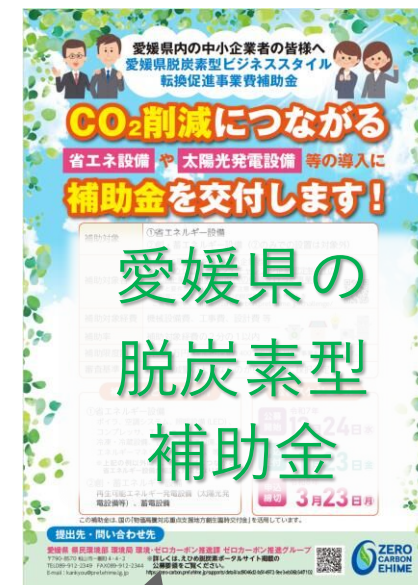
- ・ 相見積取得
- ・ 施行～補助金の支援まで対応

補助金検討

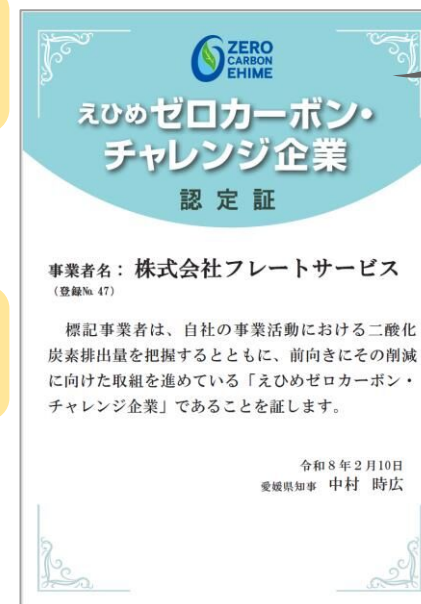
- ・ 愛媛県の補助金利用を検討
- ・ 個別伴走支援でえひめゼロカーボンチャレンジ企業認定制度へ認定

セミナー参加による企業のつながりで、判断材料が増えた

個別伴走支援の結果をさっそく活用予定



認定制度への申請が要件の補助金を活用



本年度、愛媛県事業に参加した感想

これまでの脱炭素への意識

- 脱炭素経営について取り組もうという意識はなく、「脱炭素」という言葉もニュースで目にする程度。主体的に考える機会もほとんどありませんでした。
- どこか世界的な大企業の取り組みであり、自社にはまだ縁遠いものだという認識があった。

参加中の脱炭素への意識の変化

- セミナーで脱炭素の基礎から学び、社内CO2排出量の把握方法や具体的な削減施策の理解を深める中で、単なる環境対策ではなく、企業の将来に向けた戦略的投資であることを認識しました。
- また、取り組みは決して大企業だけのものではなく、身近なところから始められること、さらには将来的なコスト削減や企業イメージの向上にもつながる可能性があることを学びました。

今後に向けた思い

- 脱炭素は環境改善のきっかけとなるだけでなく、社会的な信頼の向上や社内意識の変革など、社内外に良い影響をもたらす取り組みであると感じています。
- 今回の参加を通じて、脱炭素経営を前向きに検討し、設備投資の際も脱炭素分野も視野にした検討や、自社にできることから着実に取り組んでいきたいと考えています。